

文化薫道

ぶんか
くんどう

◆其の百三十一

見守る薬師如来
自然石梵字板碑

山門からのぞく紅葉が、一枚の写真のように美しい武蔵寺。その武蔵寺境内には、さまざまな文化財があることをご存じですか。そのうちのひとつが、山



▲自然石梵字板碑(左)背面(右)正面

門をくぐって右側にある市有形文化財「自然石梵字板碑」です。

板碑とは、亡くなった人の供養や、生前に自身の死後の冥福を祈るために建てられた供養塔です。その表面には、極楽往生へ導く阿(あ)弥陀如来などが彫られています。

自然石梵字板碑は、貞和3(1347)年に建てられ、その中央には武蔵寺のご本尊と同じ薬師如来を表す種子「バイ」の梵字が彫られています。

この板碑には、興味深い点があります。まずは見上げるほど大きいことです。だれを思って建てたのか、建立者の甲斐の思いの深さを感じさせます。次に、その形です。板碑の形は、主に上は山形に、全体は板状につくられます。しかし、この板碑は花崗(かこう)岩の巨岩を割った形を生かしたのか、上がとがり、背面は横から見ると緩やかに丸くなっています。あたかも、薬師如来を拝む人を見守る仏の姿のようです。

ぜひ、四季折々の自然の美しさとともに、武蔵寺の境内にたたずむ自然石梵字板碑をご覧ください。

☎文化財課